

高齢者施設の利用者と踊り合い、歌い合い、語り合う、ふれあいの会

教育課程上の位置付 特別活動

実施概要

初めての施設との交流活動は、生徒会とダンスチームの生徒が施設を訪問し、地域交流室で行いました。始めに、生徒が利用者に自己紹介カードを手渡し、次にダンスチームが2曲を踊りました。その後、手話入りの歌で、手話を生徒が利用者に説明し、全員で歌いました。沖縄民謡では生徒が踊り、利用者も掛け声で参加しました。利用者の手話歌披露の後、生徒はアンコールに応じて沖縄民謡を踊り、最後にプレゼント交換をしました。

活動参加者 当校 生徒…9人 担当教員…3人
内訳 交流先 利用者…35人 担当職員…4人

交通手段 当校と第3サンシャインビラとの距離はおよそ3.1km
電車と徒歩で訪問 約30分



「世界に一つだけの花」を手話付きダンスで

活動報告 実施日：10月31日(水)

始めに、生徒は利用者に丁寧に自己紹介カードを手渡し、笑顔で言葉を交わしていました。次の「ダンスコーナー」では、ダンスチームが利用者の中に入って、2曲踊り、利用者にはこやかに手拍子で参加しました。「手話コーナー」では、生徒会3人が手話歌の手話の一部を利用者に説明し、ダンスチームは利用者の手話練習を笑顔で手伝いながら歌い踊りました。「沖縄民謡コーナー」では、全員で「イヤサッサ!」などの掛け声と思ひ思ひの手踊りを楽しみました。

利用者からお返しの手話歌の後、アンコールに応じてダンスチームが沖縄民謡を踊り利用者から大きな拍手が送られました。

最後に、手作りのプレゼントを交換して、握手で活動を終わりました。

当日のスケジュール

- 13:30 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(地域交流室)
- 13:40 生徒、施設に到着
- 14:00 施設長挨拶・生徒会長始めの言葉(司会:生徒、教師サポート)
- 14:05 語らいタイム1(生徒:自己紹介カードを配布)
- 14:15 ダンスコーナー(ダンスチームの生徒)
・「ウォンビーロング」、「世界に一つだけの花」
- 14:25 手話コーナー「世界に一つだけの花」(生徒会生徒がサビの部分だけを手話指導の後、参加者全員で手話・ダンス)
- 14:35 沖縄民謡コーナー「安里屋コウタ」とカチャーシー(手踊り)
(沖縄民謡を教員の三線で生徒と利用者が一緒に歌唱・舞踊)
- 14:45 手話歌のお返し(手話クラブの利用者)
・「上を向いて歩こう」(利用者の手本の後、生徒も参加)
(利用者からのアンコール)ダンスチーム沖縄民謡を舞踊
- 14:55 語らいタイム2(生徒:ありがとうカード・メモ帳をプレゼント、利用者:折り紙をプレゼント)
- 15:00 終わりの会(御礼の言葉:生徒)・施設長挨拶
活動終了後、生徒は施設を退出

■活動のために準備したもの

- 自己紹介カード(語らいタイム) ● ありがとうカード(語らいタイム)
- 利用者へのプレゼント(作業学習製品:メモ帳)
- 会場装飾(交流会のタイトル表示、式次第)
- 手話交流のための歌詞カード ● 事後学習振り返りシートとお礼状

■工夫したところ

カードやプレゼントを活用し、直接的な語り合いができるようにしました。ダンス披露だけでなく、相互に「手話」を披露し合い、共通のテーマでも交流しました。終了後、すぐに振り返りアンケートとお礼状を書き、活動の印象を深め、向上した自尊感情を再確認しました。

■実施にあたって注意したところ

安全な活動や移動を意識し、プログラムを細分化しテンポよく進行しました。利用者の体力等を考慮し、終了時間を厳守しました。利用者へ寄り添える配置と、目線を合わせる語りかけを指導しました。

■良かったと思うところ

生徒一人一人が、目線を合わせた語り合いやふれあいを笑顔で行えました。臨機応変に対応する中で、時間内で予定通りに会を終了することができました。また、積極的に振り返りの活動に取り組みました。

■今後に向けての学校からの抱負

参加した生徒から「また交流会をしたい!」、「老人ホームに行きたい!」という声が多く挙がりました。様々な社会貢献活動の一つとして、今後継続していくべき取り組みとなりました。現場での生徒の誘導などで、教員の動きが目立ったところが反省点です。生徒が主体的に活動できるよう、充実した事前学習や練習に、計画的に取り組んでいきます。発表練習やカード作り、会場装飾作成などの様々な活動を、多くの学部学年で取り組み、学校全体で活動する意識を高めていきます。

当校は、肢体不自由教育部門(小学部・中学部・高等部)と知的障害教育部門(小学部・中学部・高等部)を併置する特別支援学校です。平成9年4月1日に設立され、教育目標に「すすんで社会へ参加する自立した人間の育成を目指す」を掲げ、「一人一人の子供を大切に作る学校創り」を目指しています。

社会貢献活動は、委員会活動によるエコキャップ運動や近隣の清掃活動、ふくのわプロジェクトなどを行っています。

活動の感想

生徒・教員の感想

生徒

- 語らいタイムで、たくさんの方にカードやプレゼントを渡せて、お話もできてよかったです。握手もたくさんしてもらって、うれしかったです。
- 手話を皆さんと一緒にやってくださるのを見て、たくさん練習してよかったです。皆さんの手話も上手でした。皆さんに教えてもらって、一緒にできてうれしかったです。
- 僕たちのダンスやエイサーを見て、たくさん手拍子や掛け声で応援してもらってうれしかったです。緊張したけれど、笑顔で踊れてよかったです。

教員

本校では毎年、「世界に一つだけの花」のダンスに、全校の児童・生徒が取り組んでいます。交流会では、手話も加えて、心を込めて披露することができました。当日は、緊張を和らげる踊りや手話、そして、ふれあひタイムでの目線を合わせて語り掛ける生徒の姿に、自然とあふれ出した生徒の笑顔と経験は、代えがたい宝物となりました。まさに、心温まるいただきものいっぱいの「ふれあひの会」となりました。「また行きたい!」「私も行きたかった!」という声に背中を押され、次年度以降の活動への意欲が高まっています。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- 大変楽しく、子供たちの一生懸命の姿に感動して、涙が出てきました。
- こんなに立派な活動をしてくれて、素晴らしいです。現代っ子なのに素晴らしいものをもっていますね。センスがいいです。
- 生徒さんの生き生きした姿がよかったです。手話を共通の話題にでき、心が温まりました。ぜひ、また来て続けてください。

施設長

素敵な企画を設けていただきありがとうございました。あきる野学園の生徒さんが一生懸命ダンスをしている姿や教員の方の三線に合わせて踊る姿、利用者様に目線を合わせ笑顔で接している姿に、利用者様、職員も胸が熱くなりました。あきる野学園の生徒さんと利用者様で手話を行いました。同じ事を共に行うことで一体感があり、利用者様も涙を流して喜ばれていました。今回の御縁を大切に、今後もこの関係を継続していきたいです。

■実施までの経過 ※(コ):コーディネーター

- 6月21日 (コ)、学校を訪問。副校長、高等部主幹教諭と希望施設等について打合せ
- 7月6日 (コ)、施設を訪問。施設長に事業内容を説明。協力依頼、施設長快諾
- 9月7日 (コ)、副校長、高等部学部主任、進路指導主任と施設を訪問。施設長と打合せ。その後、学校、施設と電話にて詳細を打合せ

交流先



社会福祉法人 福陽会
第3サンシャインビラ
住 所:東京都西多摩郡日の出町平井2368-5

■施設概要

- 特別養護老人ホーム
- 入所定員9ユニット各10名(計90名)
- 短期入所生活介護サービス(ショートステイ)
- 定員1ユニット10名



利用者も知っている沖縄民謡は大好評!



また来ますと握手をした手を離せない